

2024年度

(第14事業年度)

事業報告書

2024年 1月 1日から

2024年 12月 31日まで

公益財団法人三島海雲記念財団

## 2024 年度事業報告及び附属明細書

### 1. 2024 年度事業報告

2024 年度は、定款に定める公益目的事業（学術研究奨励事業）に基づき、第 62 回「学術研究奨励金」の贈呈及び第 13 回「三島海雲学術賞」の贈呈並びに「学術活動支援」に係る学術研究奨励事業を行いました。

#### 1) 学術研究奨励金事業（助成）

本事業は自然科学と人文科学の学術研究において、将来の発展が期待できる優れた研究を支援することを目的としています。また、若手研究者及び女性研究者の積極的応募を期待します。

##### (1) 対象とする学術研究分野

(イ) 自然科学部門 : 食の科学に関する学術研究

「食の科学」に関する学術とは、食品素材、製造・加工・調理、発酵・微生物利用、栄養・嗜好・生理機能、食の安全、疾病予防などに係る研究

(ロ) 人文科学部門 : アジアに関する人文社会科学諸分野の学術研究(日本に関わる研究も助成対象とします。)

##### (2) 対象とする研究者及び研究グループ

上記学術研究分野の個人研究者及び複数の研究機関又は異なる部局の研究者が共通の課題について研究する共同研究グループ

##### (3) 応募資格

###### (A) 個人研究奨励金

- (1) 日本在住の研究者（国籍は問いません）及び海外在住の日本人研究者
- (2) 上記の研究者には、大学院博士後期課程在籍者（及びそれに相当する大学院学生）を含みますが、大学院博士前期課程（修士課程）在籍者は応募対象外となります。
- (3) 自然科学部門：45 歳未満（2024 年 4 月 1 日現在）の研究者。ただし、以下の場合は 45 歳以上であっても応募可能です。
  - ・大学院博士後期課程在籍者
  - ・博士の学位取得後 8 年未満の研究者（博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となる者を含みます。）

人文科学部門：年齢制限は有りません。

###### (B) 共同研究奨励金

- (1) 代表研究者が応募してください。

代表研究者は、複数の研究機関又は異なる部局の研究者が、共通の課題について、共同して行う研究組織を代表し、計画の推進、取りまとめ等に責任をもって遂行できるものとします。
- (2) 代表研究者は国内の大学、研究機関に所属することとします。共同研究者の国籍所属研究機関の所在地(海外も可)を問いません。
- (3) 共同研究者の内 1 名は、代表研究者と異なる外部研究機関あるいは部局に所属していることを必要とします。
- (4) 原則として、分担研究費が 100 万円以上の共同研究者が一人以上加わることを必要とします。

(4) 応募受付期間

2024年1月10日～2月29日

(5) 選考方法

学術委員からなる選考委員会の選考を経て理事会で決定しました。

(6) 奨励金の採択結果

(A) 「個人研究奨励金」

( ) 内前年度

① 応募件数 自然科学部門 182 件(235)、人文科学部門 153 件(83)、計 335 件(318)

② 採択件数 自然科学部門 43 件(59)、人文科学部門 34 件(21)、計 77 件(80)

(採択率 23%)

※女性及び大学院学生の構成比：自然科学部門 応募 37%、採択 37%

人文科学部門 応募 67%、採択 88%

③ 贈呈金額 1 件当たり 100 万円、総額 7,700 万円

④ 助成期間 原則として、毎年7月から翌年6月の1年間

(B) 「共同研究奨励金」

( ) 内前年度

① 応募件数 自然科学部門 48 件(31)、人文科学部門 24 件(5)、計 72 件(36)

② 採択件数 自然科学部門 8 件(5)、人文科学部門 5 件(1) 計 13 件(6) (採択率 18%)

③ 贈呈金額 1 件あたり 325～500 万円、総額 6,048 万円

④ 助成期間 原則として、毎年7月から翌年6月の1年間

(7) 選考結果の通知

贈呈年度6月中旬までに申請者宛に通知しました。

(8) 助成金の贈呈

8月までに、申請者及び共同研究奨励金の分担研究者が指定する口座に一括交付しました。また、贈呈式を7月5日に東京會館にて執り行いました。

## 2) 三島海雲学術賞事業（褒賞）

本賞は、自然科学及び人文科学の学術研究領域において、とりわけ、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を顕彰し、その研究の発展を支援してゆくことを目的としています。

(1) 対象分野

(イ) 自然科学部門 : 食の科学に関する研究

「食の科学」に関する学術とは、食品素材、製造・加工・調理、発酵・微生物利用、栄養・嗜好・生理機能、食の安全、疾病予防などに係る研究

(ロ) 人文科学部門 : アジア(日本を含む)に関する人文社会科学諸分野の学術研究

(2) 候補者の資格

国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により独創的で発展性のある顕著な業績を挙げている者のうち、下記の条件を満たす若手研究者。

(イ) 45歳未満の者(2024年4月1日現在)

(ロ) 人文科学部門は、直近2年間(2021年8月から2023年9月)に刊行された著書(単著)を有する者

(ハ) 日本在住の研究者(国籍は問いません)及び海外在住の日本人研究者(日本国籍を有するもの)なお、候補者の再度の推薦は可とします。

(3) 推薦期間

2023年8月1日～同年9月30日（当日の消印有効）

(4) 選考方法

学術委員からなる選考委員会の選考を経て理事会で決定しました。

(5) 受賞者の決定

(1) 応募件数 自然科学部門 19件(17)、人文科学部門 24件(11)、計 43件(28) (内前年度

(2) 採択件数 自然科学部門 2件、人文科学部門 1件 計 3件

(3) 副賞(贈呈金額) 1件あたり 300万円、総額 900万円

(6) 結果の通知

採否の結果は、2024年4月中旬までに候補者及び推薦者に通知しました。

(7) 贈呈式

7月5日に東京會館にて贈呈式及び受賞講演会を執り行いました。

### 3) 学術活動支援事業(助成)

本事業は、大学、研究機関、学会などが主催する特定テーマの比較的小規模で国際的なセミナー、シンポジウム、講演会、研修会などの学術活動に対して支援するものです。

(1) 対象学術活動

(イ) 自然科学部門 : 食の科学に関する学術活動

「食の科学」に関する学術とは、食品素材、製造・加工・調理、発酵・微生物利用、栄養・嗜好・生理機能、食の安全、疾病予防などに係る研究

(ロ) 人文科学部門 : アジアに関する人文社会科学諸分野の学術活動(日本に関わる研究の学術活動も助成対象とします。)

国内で開催される海外からの参加者を含む国際的な上記学術活動で、クローズドな活動でなく外部/新たな参加者を認めるもの。

なお、学術集会のうち定例的な年会や季会、および、大きな大会の一部として開催される分科会や地方支部の学術集会は原則として対象外とします。

また、同一の学術活動への助成は年度内に1回だけとします。

(2) 応募資格者

学術活動の責任者又は主催者

なお、当財団の関係者は原則として対象外とします。

(3) 助成金額

(イ) 1件 50万円を上限。活動等の規模等に応じて当財団が助成額を決定。

(ロ) 使途は、学術活動の準備・運営に掛かる一切の費用

なお、応募状況、審議の結果、該当者なしの場合もあります。

(4) 申請受付期間

申込区分	受付期間	採否通知
I期	2月～4月	7月上旬
II期	8月～10月	翌年1月上旬

(5) 選考

採択は、学術委員から意見聴取の上、理事会で決定しました。

(6) 採択結果 (2024 年度支給分)

2023 年Ⅱ期 応募 2 件 採択 2 件 (自然科学 1 件、人文科学 1 件) 支給額 100 万円

2024 年Ⅰ期 応募 10 件 採択 3 件 (自然科学 1 件、人文科学 2 件) 支給額 150 万円

※2024 年度Ⅱ期は選考期間の関係で 2025 年度の支給対象

(7) 選考結果の通知

書面にて学術活動の責任者又は主催者に通知しました。

(8) 助成金の支給

各期とも採択通知後に申請者が指定する口座に交付しました。

2024 年度学術研究奨励金及び褒賞事業等 累計実績 (1963 (S38) 年～2024 (R6) 年)

事業	部門	2024年度		累計		備考	
		件数	贈呈金額	件数	贈呈金額		
(1)三島海雲学術賞 (褒賞)	自然科学部門	2 件	600 万円	26 件	5,900 万円	2012(H24)年～	
	人文科学部門	1 件	300 万円	13 件	2,800 万円		
	計	3 件	900 万円	39 件	8,700 万円		
(2)学術研究奨励金 (助成)	(A)個人研究	自然科学部門	43 件	4,300 万円	1,468 件	116,305 万円	1963(S38)年～
		人文科学部門	34 件	3,400 万円	799 件	55,992 万円	
		小計	77 件	7,700 万円	2,267 件	172,297 万円	
	(B)共同研究	自然科学部門	8 件	3,880 万円	31 件	15,360 万円	2015(H27)年～
		人文科学部門	5 件	2,168 万円	16 件	6,351 万円	
		小計	13 件	6,048 万円	47 件	21,711 万円	
計	90 件	13,748 万円	2,314 件	194,008 万円			
(3)学術活動支援金 (助成)		5 件	250 万円	34 件	1,620 万円	2013(H25)年～「その他研究支援」 2016(H28)年～「学術活動支援」	
(4)大学院博士課程奨学金		- 件	- 万円	延27 件	2,600 万円	2004(H16)～2012(H24)年終了	
合計		98 件	14,898 万円	2,414 件	206,928 万円		

注) 学術活動支援金の 2024 年度は支給ベースで記載しています。

各事業の贈呈者及び助成実績推移等は以下の資料を参照下さい。

付表 1. 第 62 回(2024 年度) 学術研究奨励金 贈呈者一覧

付表 2. 第 62 回(2024 年度) 学術研究奨励金 応募・採択件数・贈呈金額、

女性研究者・大学院学生の応募・採択比率、応募・採択者の平均年齢・年齢構成

付図 1. 学術研究奨励金 助成推移

付表 3. 第 13 回(2024 年度) 三島海雲学術賞 受賞者一覧

付表 4. 2024 年度 学術活動支援 贈呈一覧

以上

(付表 1-1)

## 第 62 回 (2024 年度) 学術研究奨励金贈呈者一覧 (自然科学部門)

## 【個人研究奨励金】

No.	「食の科学」との関連	対象分野	研究課題	氏名	所属機関	役職	年齢	性別	贈呈額 (万円)
1	5.食の安全	化学	食品のスマートパッケージング技術を支える革新的な MOF-空気二次電池の開発	赤井 亮太	東北大学大学院工学研究科	博士課程	26	男性	100
2	4.栄養・嗜好・生理機能	医学	緑内障治療に向けた眼球線維柱帯マクロファージの食食作用を増進させる脂肪酸の探索	池上 啓介	九州大学大学院農学研究院	准教授	39	男性	100
3	4.栄養・嗜好・生理機能	健康・スポーツ科学	スポーツによる相対的エネルギー不足 (REDs) における骨髄間葉系幹細胞の機能解析	池戸 葵	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター	特定研究員	33	女性	100
4	1.食品素材	農学	オルガネラ配置の人為的操作による高栄養価トマトの開発	石川 一也	岡山大学 学術研究院医歯薬学域	助教	36	男性	100
5	6.疾病予防	医学	膵β細胞の脱分化を指標とした新機軸の食事療法の開発	石田 恵美	群馬大学 生体調節研究所	准教授	43	女性	100
6	6.疾病予防	医学	腸内細菌叢、腫瘍免疫を介した小児期からの食生活が成人期がん発症に与える影響の解明	鶴飼 智子	ハーバード公衆衛生大学院 疫学部	リサーチフェロー	40	女性	100
7	3.発酵・微生物利用	農学	食品中の多様な乳酸菌種を一斉かつ精確に定量する16Sメタゲノム法の確立	大城 麦人	九州大学大学院農学研究院	助教	39	男性	100
8	5.食の安全	医学	交差反応性食物アレルギーの発症に対する抗原感作経路と共存物質の影響解析	荻野 龍平	広島大学大学院 医系科学研究科	助教	31	男性	100
9	6.疾病予防	生活科学	糖尿病の予防・治療を企図した血中脂肪酸バランスと摂取栄養素の関係解明に関する検討	鬼木 健太郎	熊本大学大学院 生命科学部	准教授	40	男性	100
10	4.栄養・嗜好・生理機能	医学	亜鉛トランスポーターを介した亜鉛がマウス卵巣内卵胞卵の成長に与える影響	影山 敦子	麻布大学 獣医学部	共同研究員	36	女性	100
11	4.栄養・嗜好・生理機能	健康・スポーツ科学	動物の脳機能制御における植物を介した新しい相互作用	金子 賢太郎	明治大学 農学部	専任講師	39	男性	100
12	4.栄養・嗜好・生理機能	歯学	味蕾オルガノイドに血管網を構築して増殖性や機能性を向上させる試み	川村 文彦	福島県立医科大学 医学部	助教	44	男性	100
13	6.疾病予防	医学	母乳中の免疫細胞と子の疾病リスクに関する新規アレルギーコンセプトの検証	國村 和史	九州大学 生体防御医学研究所	助教	36	男性	100
14	5.食の安全	農学	マウスモデルを用いた加工肉由来ニトロソ化合物が脳腸軸へ及ぼす分子病理学経路の解明	小林 美央	東京農工大学 農学部	特別研究員	38	女性	100
15	4.栄養・嗜好・生理機能	医学	ビタミンCがエピゲノム修飾を介してCD8+ T細胞の免疫応答を促進する機序の解明	近藤 健太	滋賀医科大学 医学部	助教	35	男性	100
16	6.疾病予防	医学	脂質代謝酵素PLAAT1の欠損マウスが示す抗脂肪肝の分子メカニズムの解明	佐々木 すみれ	香川大学 医学部	助教	30	女性	100
17	6.疾病予防	生物学	萎縮性胃炎の治療法開発に向けた幹細胞分化障害メカニズムの解析	高田 仁実	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	助教	43	女性	100
18	4.栄養・嗜好・生理機能	農学	ミクログリアによる神経炎症に対する脂肪酸の効果	高野 桂	大阪公立大学大学院 獣医学研究科	准教授	44	女性	100
19	6.疾病予防	健康・スポーツ科学	サルコペニア予防に向けた、アミノ酸による筋タンパク質合成制御機構の解明	竹垣 淳也	神戸大学大学院 農学研究科	助教	33	男性	100
20	5.食の安全	医学	食品添加物がアトピー性皮膚炎や気管支喘息に及ぼす影響の解明	溜 雅人	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部	研究員	40	男性	100
21	4.栄養・嗜好・生理機能	農学	骨格筋再生力の向上に資する機能的食品成分の探索	徳武 優佳子	信州大学 学術研究院農学系	助教	33	女性	100
22	1.食品素材	農学	作出された複二倍体黒ラズベリーの果実及び葉における健康機能性に向けた品質評価	登島 早紀	弘前大学 農学生命科学部	助教	32	女性	100
23	6.疾病予防	生物学	肥満の残留リスクをもたらすエピゲノムメモリー機構の解明	長沢 思音	千葉大学 医学部	博士課程	28	女性	100
24	6.疾病予防	医学	食思不振の伝播に関わる神経回路メカニズムの時間空間的な探索	長濱 健一郎	ジョンズ・ホプキンス大学 医学部	博士研究員	36	男性	100
25	5.食の安全	農学	トマト生産を脅かすウイルス病の制圧に向けた抵抗性育種スキームの構築	西川 雅展	東京大学大学院 農学生命科学研究科	特任研究員	28	男性	100
26	3.発酵・微生物利用	農学	野生酵母ライブラリーからのプロリン高質化性株の単離とその利用	西村 明	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	助教	39	男性	100
27	3.発酵・微生物利用	農学	大豆臭気低減を目的としたヘキサナル酸化酵素の開発	林 順司	徳島大学 生物資源産学部	講師	39	男性	100
28	6.疾病予防	医学	妊娠中のイソフラボン摂取が小児アレルギー疾患発症に与える影響の解明	久田 文	千葉大学 予防医学センター	助教	39	女性	100

(付表 1-2)

【個人研究奨励金】

No.	「食の科学」との関連	対象分野	研究課題	氏名	所属機関	役職	年齢	性別	贈呈額(万円)
29	6.疾病予防	医学	樹状細胞に免疫寛容性を付与する腸内細菌の同定と新規食物アレルギー治療法の開発	深谷 知宏	宮崎大学 医学部	助教	44	男性	100
30	4.栄養・嗜好・生理機能	健康・スポーツ科学	食品温度が消化速度に及ぼす影響に着目した新規血糖コントロール方法の開発	藤平 杏子	東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院	特別 研究員	31	女性	100
31	4.栄養・嗜好・生理機能	農学	新規機能性卵の開発を見据えた、ニワトリ卵黄へのグルタミン酸輸送システムの解明	古川 恭平	名古屋大学大学院 生命農学研究科	助教	32	男性	100
32	6.疾病予防	医学	分泌型IgA抗体による腸内有用菌(善玉菌)と病原菌(悪玉菌)の識別機構の解明	古谷 弦太	東京大学 定量生命科学研究所	特任講師	33	男性	100
33	6.疾病予防	医学	プロックリー由来スルフォラファンによるアトピー性皮膚炎への影響:腸内細菌叢の役割	彭 戈	順天堂大学大学院 医学研究科	特別 研究員	31	男性	100
34	4.栄養・嗜好・生理機能	医学	加齢・糖尿病における味蕾幹細胞と幹細胞ニッチの機能解析	三浦 雅臣	東京大学 医学部附属病院	助教	34	男性	100
35	6.疾病予防	医学	老化によるNAD <sup>+</sup> レベルの低下は認知機能障害を引き起こすのか?	水谷 天音	富山大学 学術研究部医学系	助教	27	女性	100
36	6.疾病予防	医学	脂肪毒性によるオートファジー停滞・細胞老化に着目した糖尿病関連腎臓病の病態解明	南 聡	大阪大学大学院 医学系研究科	特任助教	39	男性	100
37	6.疾病予防	薬学	食事に含まれるアクリルアミドのリスク低減:飲酒がもたらす悪影響と除去受容体の探索	宮内 優	崇城大学 薬学部	講師	37	男性	100
38	6.疾病予防	医学	経口可能化技術を活用した酪酸の腸β細胞保護・糖尿病予防効果と機序の解明	村上 隆亮	京都大学 医学部附属病院	助教	38	男性	100
39	5.食の安全	農学	フードロス削減および園芸作物の機能性成分増強のための新たな殺菌技術の開発	望月 佑哉	茨城大学 農学部	講師	36	男性	100
40	4.栄養・嗜好・生理機能	脳科学	授乳期の摂食および攻撃行動を制御するニューロペプチドY回路の機能解析	山口 隆司	ニューヨーク大学 医学部	特別 研究員	40	男性	100
41	6.疾病予防	医学	納豆菌が分泌するRSウイルス不活化物質の同定と作用機序の解明	山本 聡	札幌医科大学 医学部	助教	41	男性	100
42	6.疾病予防	生活科学	“代謝的に健康な肥満”をもたらす食事療法プロトコルの確立とその機序解明	和田 恵梨	名古屋大学 環境医学研究所	特任助教	34	女性	100
43	4.栄養・嗜好・生理機能	医学	周産期の葉酸過剰摂取が子の腸β細胞のエピゲノムに及ぼす影響の解明	和田 亘弘	札幌医科大学 医学部	助教	35	男性	100
自然科学部門 応募件数 182件					贈呈件数 43件		贈呈金額 4,300万円		

【共同研究奨励金】

No.	「食の科学」との関連	対象分野	研究課題	代表研究者	所属機関	役職	年齢	共同研究者数	贈呈額(万円)
1	6.疾病予防	歯学	食を支える歯を歯周病から守る - 迅速病原体唾液検査法の確立と新規予防法の開発	今井 健一	日本大学 歯学部	教授	51	5	480
2	4.栄養・嗜好・生理機能	農学	超硫黄オミクス解析による硫黄含有食品の生理・薬理機能の解析	笠松 真吾	大阪公立大学大学院 理学研究科	テニュアトラック助教	37	3	400
3	6.疾病予防	工学	腸内細菌叢を再構成した生体外臓器モデルの創製	加地 範匡	九州大学大学院 工学研究院	教授	47	2	500
4	5.食の安全	医学	水道水中の微量金属とコレステロールの同時摂取が肝線維化を促進する機序の解明	清水 真祐子	徳島大学大学院 医歯薬学研究部	講師	36	4	500
5	4.栄養・嗜好・生理機能	生活科学	世代を超える食生活の影響-リン代謝と脳機能をつなぐ抗老化因子α-Klotho-	瀬川 博子	徳島大学 医学部	教授	51	4	500
6	3.発酵・微生物利用	農学	フレイル予防・治癒に寄与する乳酸発酵食品の開発	土居 克実	九州大学大学院 農学研究院	教授	58	4	500
7	2.製造・加工・調理	農学	タンパク科学と食品加工学の分野連携から解き明かす乳タンパク質の乳化特性と原理	野崎 翔平	筑波大学 生命環境系	助教	33	3	500
8	6.疾病予防	医学	肥満・糖尿病がアルツハイマー病の神経病理学的変化を促進する機序の解明	若林 朋子	明治薬科大学 薬学部	准教授	47	2	500
自然科学部門 応募件数 48件					贈呈件数 8件		贈呈金額 3,880万円		

自然科学部門 贈呈金額合計 8,180万円  
(所属・役職は申請時、五十音順、敬称略)

(付表 1-3)

## 第 62 回 (2024 年度) 学術研究奨励金贈呈者一覧 (人文科学部門)

## 【個人研究奨励金】

No	対象分野	研究課題	氏名	所属機関	役職	年齢	性別	贈呈額 (万円)
1	史学	唐代における族内秩序の研究：妻と妾を中心として	板橋 暁子	東京大学附属図書館 アジア研究図書館	助教	42	女性	100
2	芸術学	「あらゆる姿を持つ」ヴィシュヌ像の研究：古代中世北インドと東インドの作例を中心に	大木 舞	京都大学大学院 文学研究科	博士課程	34	女性	100
3	地域研究	国家とマイノリティをつなぐもの—マレーシア・サラワク州の先住民社会に関する研究—	大室 元	東京大学大学院 総合文化研究科	博士課程	31	男性	100
4	史学	縄文時代後晩期の土器製塩復元—古代中国山東省地域における考古学的事例を元に—	岡本 樹	早稲田大学大学院 文学研究科	博士課程	28	女性	100
5	文化人類学	日本社会を生きるムスリム女性の自己・他者認識に関する文化人類学的研究	AI YU	東北大学大学院 文学研究科	博士課程	29	女性	100
6	地域研究	異民族を包摂する集団はいかに発展したか—マレーシアの現地化インド系移民に着目して	柏 美紀	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科	博士課程	26	女性	100
7	史学	「昌徳宮李王国葬記録研究—日本国立公文書館所蔵『故大勳位李王国葬書類』を中心に—」	姜 多映	東京大学大学院 人文社会系研究科	博士課程	39	女性	100
8	史学	米領フィリピンの日本人移民コミュニティを通してみる、アジア太平洋近代史	北田 依利	法政大学 国際文化学部	兼任講師	39	女性	100
9	史学	15世紀西アジア・中央アジアにおけるアラビア語・ペルシア語両文化圏の交流	笹原 健	京都大学大学院 文学研究科	博士課程	25	男性	100
10	文化人類学	フィリピン・マニラ首都圏における若者気候アクティビズムの民族誌的研究	芝宮 尚樹	東京大学大学院 総合文化研究科	博士課程	29	-	100
11	文化財科学・博物館学	日本・鏝阿寺に伝世したマジャパヒト王国期ジャワの宝剣「クリス (Keris)」の研究。	鈴木 一平	総合研究大学院大学 先端学術院	博士課程	26	男性	100
12	史学	19世紀前半期中国におけるミッション・スクール設立の「難航」と西学東漸の「挫折」	SO CHITSHING	同志社大学 グローバル・スタディーズ研究科	博士課程	29	男性	100
13	社会学	中国における「優生優育」思想の言説空間	宋 円夢	京都大学大学院 文学研究科	博士課程	27	女性	100
14	史学	近代北海道におけるキリスト教伝道とアイヌ女子教育に関する歴史的研究	田辺 陽子	早稲田大学大学院 社会科学研究科	博士課程	46	女性	100
15	芸術学	江戸時代の型吹き技法研究とサーキュラーエコノミー時代のガラス素材	地村 洋平	東京藝術大学 美術学部	テクニカル インストラクター	39	男性	100
16	史学	二つのアラビア語法学史料からみた9～12世紀アンダールのキリスト教徒の婚姻と家族	塚原 稜央	北海道大学大学院 文学院	博士課程	28	男性	100
17	文化財科学・博物館学	科学技術博物館と平和のパラドックス—現代イランの事例から	寺田 悠紀	東京大学 東京カレッジ	特任助教	37	女性	100
18	地域研究	上海における文化政策・文化産業の研究：政治的目的と経済的利益の関係性に着目して	照井 敬生	西安交通リヴァプール大学 映画テレビ芸術科	助教授	32	男性	100
19	芸術学	中国におけるラジオ体操の形成と日本—戦時日本の身体政策とそその中の音楽の役割	藤 東君	東京大学大学院 総合文化研究科	博士課程	33	女性	100
20	環境保全学	先端計算機資源を活用した日本最古の持続的木質資源利用に見る“常若”の思想の検証	中島 徹	東京大学大学院 農学生命科学研究科	助教	44	男性	100
21	哲学	インド伝統医学における精神神経科関連疾患の包括的研究—原典批判と実地調査—	長田 晋一	九州大学大学院 人文科学府	博士課程	27	男性	100
22	地域研究	デジタル時代における私設博物館収蔵資料の継承に関する研究：ヨコタ博物館の試みから	中村 真里絵	愛知淑徳大学 交流文化学部	助教	46	女性	100
23	政治学	戦前期日本外交官と近代日本官僚制	中村 凌太郎	立命館大学大学院 文学研究科	博士課程	27	男性	100

## (付表 1-4)

## 【個人研究奨励金】

No	対象分野	研究課題	氏名	所属機関	役職	年齢	性別	贈呈額 (万円)
24	史学	司法保護に関する知の伝播と連鎖の社会史 — 帝国日本の監獄官僚の植民地経験と実践 —	魯 洙彬	東京大学大学院 総合文化研究科	博士課程	35	女性	100
25	政治学	南洋における華僑の送金とその民族主義 (1937年～1945年)	裴 奕	大阪大学大学院 国際公共政策研究科	博士課程	29	男性	100
26	経済学	CSR (企業の社会的責任) の経済・社会的影響: インド ネシアのCSR法を利用した実証分析	藤崎 航太郎	ユニバーシティカレッジ ロンドン 経済学研究科	博士課程	27	男性	100
27	地域研究	モンゴルの拜火祭の研究	ホビト	神奈川大学大学院 歴史民俗資料学研究所	博士課程	34	女性	100
28	芸術学	僧巨然から瀟湘八景に至るまで—山容の地理性と聖性を 集約する北宋の都開封—	前田 佳那	九州大学大学院 人文科学府	博士課程	27	女性	100
29	芸術学	日本伝統木版画技術の保存と継承: 国際発信を通じた 現状と課題の考察	松葉 涼子	イーストアングリア大学 セインズベリー日本藝術 研究所	講師	44	女性	100
30	史学	西洋古代歴史学の視点から見た史学科設立後の「世界 史」とグローバル教育	水島 顯介	東京大学大学院 人文社会系研究科	博士課程	29	男性	100
31	史学	清朝後期における官僚機構と政策決定過程に関する研 究	水盛 涼一	多摩大学 経営情報学部	准教授	44	男性	100
32	文化人類学	北タイ村落の寺院建立をめぐる宗教的贈与の現代 —クルーパーの慈善事業を事例に—	山田 実季	京都大学大学院 人間・環境学研究所	博士課程	29	女性	100
33	ジェンダー	「医薬品」から「化粧品」へ—近代日本の「化粧 品」業界とジェンダー—	楊 雅韻	京都大学大学院 文学研究科	博士課程	27	女性	100
34	史学	前1千年紀バビロニアの人名と名付けのジェンダー的側 面	渡井 葉子	中央大学 人文科学研究所	客員研究 員	50	女性	100
人文科学部門 応募件数 153件				贈呈件数 34件	贈呈金額 3,400万円			

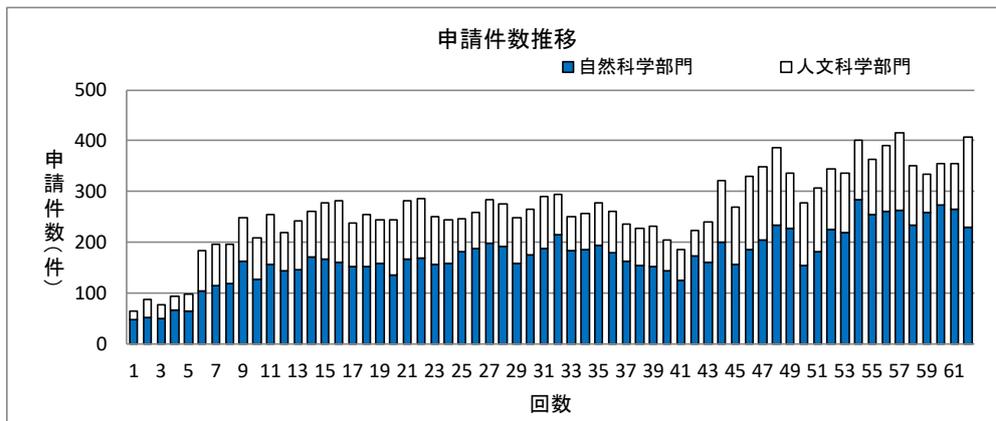
## 【共同研究奨励金】

No	対象分野	研究課題	代表研究者	所属機関	役職	年齢	共同 研究者 数	贈呈額 (総額)
1	芸術学	楽と舞: 雅楽実践の身体コミュニケーション	鎌田 紗弓	国立文化財機構 東京文化財 研究所 無形文化遺産部	研究員	33	7	463
2	芸術学	チングス・ハーン博物館所蔵資料「モンゴル宮廷衣 装」に関する学際的研究	河上 繁樹	関西学院大学 文学部	教授	67	8	500
3	史学	帝国日本の大陸政策と「チベット・モンゴル仏教 圏」: ハイヤー文書の調査を中心に	小林 亮介	九州大学大学院 比較社会文化研究院	准教授	43	3	325
4	史学	前近代の東-東南アジア間における多国間陶磁交易に 関する歴史考古学研究	田畑 幸嗣	早稲田大学 文学学術院	教授	51	3	500
5	史学	中世イスラーム時代アラビア半島における港町の構造 と流通研究—探査・分析科学の応用	長谷川 奏	早稲田大学 総合研究機構	客員上級研究員(研 究院客員教授)	65	3	380
人文科学部門 応募件数 24件				贈呈件数 5件	贈呈金額 2,168万円			

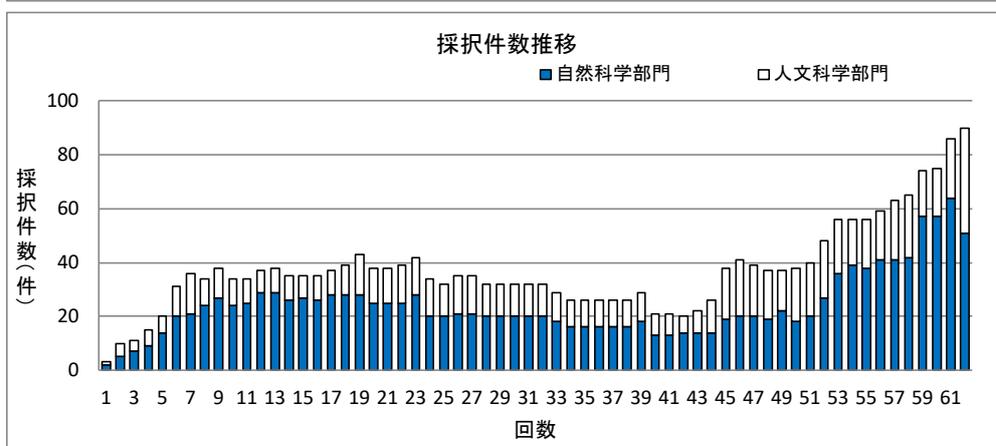
人文科学部門 贈呈金額合計 5,568万円  
(所属・役職は申請時、五十音順、敬称略)

(付図 1)

学術研究奨励金 助成推移 (共同研究含む第 53 回～、奨学金を除く)  
第 1 回(1963 年(昭和 38 年))～第 62 回(2024 年(令和 6 年))

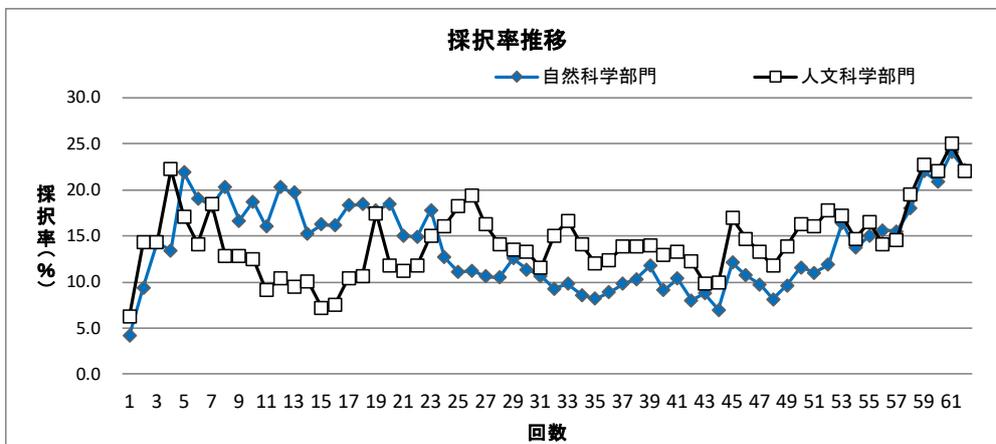


(2024年度)  
自然科学 230件  
人文科学 177件  
計 407件



(2024年度)  
自然科学 51件  
人文科学 39件  
計 90件

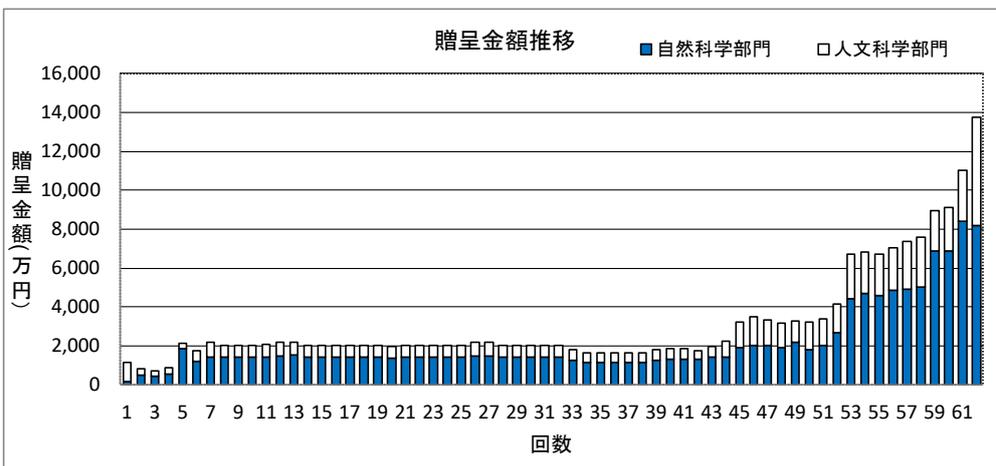
(累計)  
自然科学 1,499件  
人文科学 815件  
計 2,314件



(2024年度)  
自然科学 22.2%  
人文科学 22.0%

(平均採択率)  
22.1%

53回より  
自然・人文の1件  
当たり助成を  
同額にした  
(総額比率は変えず)



(2024年度)  
自然科学  
8,180万円  
人文科学  
5,568万円  
(合計)  
13,748万円

(累計)  
194,008万円

(付表2)

## 第13回(2024年度)三島海雲学術賞受賞者

## 【自然科学部門】

No	受賞者	受賞テーマ	所属機関	役職	学位	年齢	推薦者	当財団 助成歴	副賞 (万円)
1	つかさき まさゆき 塚崎 雅之	食を支える口腔恒常性の維持・破綻 機構の解明	東京大学 大学院医学系研究科 骨免疫学寄付講座	特任 助教	博士 (医学)	34	東京大学 大学院医学系研究科 研究科長 南學 正臣	無	300
2	もんでん ゆき 門田 有希	食の安心・安全に貢献する作物の品 種識別技術の開発	岡山大学 学術研究院 環境生命自然科学学域 ゲノム遺伝解析学研究室	准教授	博士 (農学)	38	日本育種学会 会長 加藤 鎌司	2015年	300

## 【人文科学部門】

No	受賞者	受賞テーマ	所属	役職	学位	年齢	推薦者	当財団 助成歴	副賞 (万円)
1	てい えいちょう 程 永超	華夷変態の東アジア：近世日本・朝 鮮・中国三国関係史の研究 (2021年10月刊行 清文堂出版)	東北大学 東北アジア研究センター	准教授	博士 (歴史 学)	34	東北大学東北アジア 研究センター センター長 千葉 聡	無	300

(付表3)

## 2024年度 学術活動支援 贈呈一覧(本年度支給分)

	2023年度第Ⅱ期	2023年度第Ⅱ期
部門	自然科学分野	人文科学分野
活動の名称	第17回国際寄生植物学会	中国における加藤周一『雑種 文化』の受容シンポジウム
責任者	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授 吉田聡子	立命館大学 加藤周一現代思想研究センター センター長 加國尚志
開催時期	2024年6月3～7日	2024年10月1日～11月30日 の内1日
開催場所	奈良春日野国際フォーラム 麓	立命館大学衣笠キャンパス
参加予定者数	120名(内、海外から90名)	150～200名 (内、海外から20～30名)
助成額	50万円 (運営経費総額946万円)	50万円 (運営経費総額100万円)

	2024年度第Ⅰ期	2024年度第Ⅰ期	2024年度第Ⅰ期
部門	自然科学分野	人文科学分野	人文科学分野
活動の名称	14 <sup>TH</sup> JOINT INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON FOOD SCIENCE AND TECHNOLOGY	国際食文化会議2024年大会：持続 可能な食文化の実現に向けた比較 研究	前近代以降の東アジアにおける「 人物」と「国」の諸概念—テキスト とイメージから探る自他認識と世 界観—
責任者	北海道大学大学院水産科学研究院 研究院長 都木靖彰	京都大学大学院農学研究科 教授 秋津元輝	京都大学 名誉教授(文学研究科) 杉浦和子
開催時期	2024年11月14～16日	2024年10月18～20日	2024年12月7日
開催場所	北海道大学 函館キャンパス	京都大学 北部総合教育研究棟 益川ホール	京都大学文学部 第三講義室
参加予定者数	110名(海外から35名)	80名(海外から40名)	400名(海外から160名)
助成額	50万円 (運営経費総額100万円)	50万円 (運営経費総額180万円)	50万円 (運営経費総額90万円)

## 2. 業務及び職務の執行状況

2024年度の業務執行に関する事項は以下の通りです。

### 1) 評議員・役員・委員に関する事項

付表5、6（16～17ページ）をご参照ください。

### 2) 理事会・評議員会等に関する事項

#### (1) 理事会（開催回数：理事会6回開催）

回	開催日	決議事項	報告事項
第77回	理事会（臨時）	（決議の省略による方法）	
	1月17日	第1号議案 「2023年度第Ⅱ期学術活動支援」贈呈者等承認の件 <理事全員から承認を得た。監事からの異議はなかった。>	
第78回	理事会（通常）		
	2月20日 ウェスティンホテル 東京	第1号議案 第29回評議員会（定時）招集の件 第2号議案 2023年度事業報告及び附属明細書承認の件 第3号議案 2023年度財産・損益の状況及び附属明細書承認の件 第4号議案 役員等及び委員の謝金に関する規程改定の件 第5号議案 役員損害賠償責任保険更新の件 第6号議案 2023年度事業報告書等の提出書類承認の件 <いずれも異議なく承認された>	1. 2023年度業務及び職務の執行状況報告 2. 2023年度資産管理運用状況について 3. 基本財産の株式等の議決権行使について 4. 能登半島地震災害義援金・支援金拠出について
第79回	理事会（臨時）	（決議の省略による方法）	
	4月4日	第1号議案 第13回（2024年度）三島海雲学術賞受賞者承認の件 <理事全員から承認を得た。監事からの異議はなかった。>	
第80回	理事会（臨時）	（決議の省略による方法）	
	6月5日	第1号議案 「第62回（2024年度）学術研究奨励金」贈呈者等承認の件 第2号議案 「2024年度第Ⅰ期学術活動支援」贈呈者等承認の件 <理事全員から承認を得た。監事からの異議はなかった。>	
第81回	理事会（通常）		
	11月29日 ウェスティンホテル 東京	第1号議案 第30回評議員会（臨時）招集の件 第2号議案 「特定研究助成金」事業（助成）制定の件 第3号議案 2025年度事業計画承認の件 第4号議案 2025年度収支（損益）予算承認の件 第5号議案 2025年度資産運用基本方針及び計画承認の件 第6号議案 「学術委員会規則」及び「学術研究奨励金等に関する施行規則」改定の件 第7号議案 学術委員（特定研究助成部門）委嘱の件 第8号議案 「有価証券等の運用基準」改定の件 <第2号議案は継続審議（再上程）に、第3号議案は第2号議案に係る計画内容を再上程後の決議内容に置き換えることを前提に、他の議案は原案どおり承認された>	1. 2024年度事業（中間）報告 2. 2024年度業務執行状況（中間）報告 3. 2024年度資産管理運用状況について 4. その他
第82回	理事会（臨時）	（決議の省略による方法）	
	12月9日	第1号議案 「特定研究助成金」事業（助成）制定の件 <理事全員から承認を得た。監事からの異議はなかった。>	

#### (2) 監査（於 財団会議室）

1回	1月31日	1. 2023年度事業報告及び附属明細書に関する事項 2. 2023年度財産及び損益の状況及び附属明細書に関する事項
2回	10月4日	1. 2024年度事業並びに業務に関する事項 2. 2025年度事業計画案、収支（損益）予算案、資産運用方針案及び資産運用計画案について

(3) 評議員会 (開催回数: 2 回開催)

回	開催日	決議事項	報告事項
第 29 回 評議員会 (定時)			
	3 月 13 日 東京會舘	第 1 号議案 2023 年度事業報告及び 附属明細書承認の件 第 2 号議案 2023 年度財産・損益の 状況及び附属明細書承認の件 <いずれも異議なく承認された>	1. 2023 年度事業報告書等の提出書類につ いて 2. 2023 年度業務及び職務の執行状況報告 3. 2023 年度資産管理運用状況について 4. 基本財産の株式等の議決権行使について 5. 役員等及び委員の謝金に関する規程改定 について 6. 役員損害賠償責任保険更新について 7. 能登半島地震災害義援金・支援金拠出に ついて
第 30 回評議員会 (臨時)			
	11 月 29 日 ウェスティンホテル 東京		1. 「特定研究助成金」事業(助成)制定につ いて 2. 2025 年度事業計画について 3. 2025 年度収支(損益)予算について 4. 2025 年度資産運用基本方針及び計画に ついて 5. 「学術委員会規則」及び「学術研究奨励金 等に関する施行規則」改定について 6. 学術委員(特定研究助成部門)委嘱につ いて 7. 「有価証券等の運用基準」改定につ いて 8. 2024 年度事業(中間)報告 9. 2024 年度業務執行状況(中間)報告 10. 2024 年度資産管理状況について

3) 学術委員会・選考委員会に関する事項

(1) 選考委員会 (開催回数: 自然科学部門 2 回、人文科学部門 3 回開催)

2024 年度	3 月 19 日	「第 13 回三島海雲学術賞二次選考委員会」 (人文科学部門) (1 名選出)
	3 月 22 日	「第 13 回三島海雲学術賞二次選考委員会」 (自然科学部門) (2 名選出)
	5 月 27 日	「第 62 回学術研究奨励金」 (自然科学部門) (個人研究 43 件、共同研究 8 件選出) 「2024 年度第 I 期学術活動支援 (自然科学部門) (意見聴取) (オンライン会議)
	5 月 30 日	「第 62 回学術研究奨励金」 (人文科学部門) (個人研究 37 件※、共同研究 5 件選 出) ※爾後、個人研究 3 件の辞退あり 「2024 年度第 I 期学術活動支援 (人文科学部門) (意見聴取) (オンライン会議)
2025 年度	12 月 10 日	「第 14 回三島海雲学術賞一次選考委員会」 (人文科学部門)

注) 「第 14 回三島海雲学術賞一次選考委員会」 (自然科学部門) は 2025 年 1 月 29 日に開催。

(2) 学術委員会 (開催回数: 自然科学部門 1 回、人文科学部門 1 回、特定研究助成部門 1 回開催)

自然科 学部門	11 月 1 日	1. 2024 年度研究助成事業の実績報告 2. 2025 年度事業計画・予算(案)について 3. 「特定研究助成」事業について、他
人文科 学部門	10 月 28 日	1. 2024 年度研究助成事業の実績報告 2. 2025 年度事業計画・予算(案)について 3. 「特定研究助成」事業について、他
特定研 究助成 部門	12 月 16 日	1. 学術委員長選任の件 2. 「特定研究助成金選考指針(内規)」制定の件 3. 2025 年度事業計画・予算(案)について、他

(3) 贈呈式

7月5日に東京會館にて贈呈式及び三島海雲學術賞受賞講演会を執り行いました。

(4) 學術研究奨励金研究報告会

日時・場所：2024年9月19日(木)、渋谷エクセルホテル東急

研究報告：2021～23年度共同研究報告 自然科学部門5題、人文科学部門3題

聴講：2023年度個人研究奨励金受贈者34名、共同研究奨励金分担研究者3名、  
學術委員8名

交流：研究報告会実施後、交流会を実施

4) 資産管理委員会に関する事項

(1) 資産管理委員会（開催回数：4回開催）

第46回	2月15日	1. 2023年度事業報告(案)及び決算(案)について 2. 2023年度資産管理運用結果について 3. 2024年度資産購入・売却状況について
第47回	6月17日	1. 2024年度資産管理運用状況報告(年間収益見込) 2. 2024年度資産償還/売却、購入の状況について
第48回	10月17日	1. 2024年度資産管理運用状況報告 2. 2025年度資産運用方針(案)及び資産運用計画(案)について 3. 2025年度収支予算(案)について
第49回	12月18日	1. 2024年度資産運用状況報告 2. 2025年度資産運用計画について、他

5) 登記などに関する事項

なし

6) 内閣府認定等委員会届出等に関する事項

月 日	届け・提出等
1月18日	変更の届出（事業の内容：學術研究奨励金の応募資格の変更等）
3月22日	2023年度事業報告等の提出
12月11日	2025年度事業計画・収支予算の提出 変更の届出（事業の内容：特定研究助成金事業の制定）

7) 契約に関する事項

重要な契約はなし

8) その他の重要事項

(1) 年次報告書の発行

11月7日	2024年度「年次報告書」発行	発行部数	400部
-------	-----------------	------	------

注) 年次報告書には研究概要を掲載し、研究報告書は電子媒体にて保管。

(2) 普及広報

三島海雲學術賞の受賞者及び受賞記念オンライン講演実施の告知、並びに次年度の募集告知を7月24～26日に朝日・読売(東阪)、日本経済新聞(全国)、主要地方紙6紙に掲載しました。

以上

(付表5)

## 評議員・役員・顧問 名簿

(2024年12月31日現在) 敬称略

職名	常勤・非常勤	氏名	現職
<b>評議員(9名)</b>			
評議員会 会長	非常勤	谷口 直之	大阪国際がんセンター研究所長 大阪大学名誉教授
評議員	非常勤	岸本 美緒	お茶の水女子大学名誉教授
評議員	非常勤	西川 孝純	共同通信社客員論説委員 元共同通信社論説委員長
評議員	非常勤	清水 孝雄	微生物化学研究所長 国立国際医療研究センターシニアフェロー 東京大学名誉教授
評議員	非常勤	塚本 隆史	株式会社みずほフィナンシャルグループ特別顧問 ・元取締役社長・会長
評議員	非常勤	坪井 善明	早稲田大学名誉教授
評議員	非常勤	寺田 篤	元株式会社電通ラジオテレビ&エンタテインメント 局長
評議員	非常勤	濱田 正美	神戸大学名誉教授 京都大学名誉教授
評議員	非常勤	西村 秀豊	元カルピス株式会社取締役執行役員
<b>理事(9名)</b>			
理事長	非常勤	羽田 正	東京大学名誉教授
副理事長	非常勤	清水 誠	東京大学名誉教授 東京農業大学客員教授
理事	非常勤	三尾 裕子	慶応大学文学部教授 東京外国語大学名誉教授
理事	非常勤	山本 匠	元パンピー食品株式会社取締役社長
理事	非常勤	山本 直之	順天堂大学医学部特任教授
理事	非常勤	和田 一郎	牛嶋・和田・藤津・吉永法律事務所 弁護士
理事	非常勤	齋藤 芳男	元カルピス株式会社常務執行役員
常務理事	常勤	唐木田陽一	公益財団法人三島海雲記念財団常務理事
常務理事	常勤	山田 誠	公益財団法人三島海雲記念財団常務理事
<b>監事(2名)</b>			
監事	非常勤	打越 誠	元中央日本土地建物株式会社顧問
監事	非常勤	齋藤 正三	齋藤会計士事務所 公認会計士・税理士
<b>顧問(1名)</b>			
顧問	非常勤	太田 達男	公益財団法人公益法人協会会長
<b>名誉顧問(5名)</b>			
名誉顧問	非常勤	石毛 直道	国立民族学博物館名誉教授・元館長
名誉顧問	非常勤	今関 博	元カルピス株式会社取締役副社長
名誉顧問	非常勤	上野川修一	東京大学名誉教授
名誉顧問	非常勤	小林 公生	元カルピス株式会社取締役社長・会長
名誉顧問	非常勤	間野 英二	龍谷大学客員教授 京都大学名誉教授 日本学士院会員

(付表6)

### 学術委員 名簿

(2024年12月31日現在) 敬称略

職名	氏名	現職
<b>自然科学部門 (9名)</b>		
学術委員長	清水 誠	東京大学名誉教授 東京農業大学客員教授
学術委員	阿部 啓子	東京大学名誉教授 東京農業大学客員教授 神奈川県立産業技術総合研究所顧問
学術委員	石見 佳子	東京農業大学総合研究所参与・客員教授
学術委員	曾根 博仁	新潟大学医学部・大学院医歯学総合研究科教授
学術委員	谷口 直之	大阪国際がんセンター研究所長 大阪大学名誉教授
学術委員	難波 成任	東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授 東京大学名誉教授
学術委員	西山 千春	東京理科大学先進工学部教授
学術委員	伏木 亨	甲子園大学学長 京都大学名誉教授
学術委員	山本 直之	順天堂大学医学部特任教授

### 人文科学部門 (6名)

学術委員長	山室 信一	京都大学名誉教授
学術委員	赤松 明彦	京都大学名誉教授
学術委員	宇山 智彦	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授
学術委員	岸本 美緒	お茶の水女子大学名誉教授
学術委員	小長谷有紀	国立民族学博物館名誉教授
学術委員	佐藤 仁	東京大学東洋文化研究所教授

### 特定研究助成部門 (3名)

学術委員長	味埜 俊	東京大学名誉教授
学術委員	秋津 元輝	京都大学大学院農学研究科教授
学術委員	熊谷日登美	日本大学生物資源科学部教授

### 資産管理委員 名簿

(2024年12月31日現在) 敬称略

職名	氏名	現職
資産管理委員長 (理事)	齋藤 芳男	元カルピス株式会社常務執行役員
資産管理委員	出塚 清治	税理士法人出塚会計事務所 公認会計士・税理士
資産管理委員	山田 和久	元カルピス株式会社健康・機能性食品事業部部长
資産管理委員 (理事)	山本 匠	元パンピー食品株式会社取締役社長
資産管理委員	佐藤 幹彦	元カルピス株式会社理事財務部長
資産管理委員 (理事)	山田 誠	公益財団法人三島海雲記念財団常務理事
アドバイザー	柏原 延行	丸三証券株式会社常務執行役員 投資信託部長 チーフ・グローバルストラテジスト

## 附 属 明 細 書

### 1. 2024 年度事業報告の明細

- 1 2024 年度事業報告並びに
- 2 業務及び職務の執行状況において記載している。